

水ぼうそう(水痘) が流行しています。

水ぼうそうは水痘・帯状疱疹ウイルスが空気感染や接触感染によって感染します。水ぼうそうに感染している人の身体にできる水疱（水ぶくれ）の中に多数のウイルスが含まれています。

主な症状

やや高めの発熱があり、赤い虫刺されのような発疹が首やおなか等に出て、半日から1日で体、顔、頭皮に広がり、発疹は次第に強いかゆみのある水泡に変わります。水疱はやがて膿をもち、3～4日でカサブタになり、かゆみもおさまります。



写真出典: 国立感染症研究所

合併症

最も多いのは皮膚の細菌二次感染（水痘の発疹にバイ菌が付着し、化膿などを起こすこと）ですが、ごく少ないながら脳炎や小脳失調症といった神経合併症をおこすことがあります。腎臓の病気や膠原（こうげん）病などでステロイドを内服しているお子さん、血液の病気や生まれつき免疫の弱いお子さんたちは、重症化したりワクチンの予防接種ができない場合があります。

感染経路

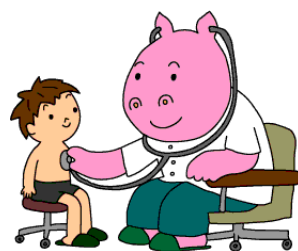
水ぼうそうに感染しているお子さんとの接触によって、あるいは空気感染もする非常に感染力の強い病気です。感染しているお子さんとすれちがっただけでも感染することがあります。咳やくしゃみで飛び散った飛沫に含まれたウイルスによってうつります。特に、発疹の出る直前から発疹がカサブタになるまでの間は感染力が強いですので注意してください。

潜伏期間

水ぼうそうのお子さんに接触して2週間程度の症状が現れない潜伏期間があります。

医療機関に受診

発疹に気が付いたらすぐに病院を受診してください。病院の受付で、あるいは電話で「水ぼうそうかもしれません。」と伝えてください。ほとんどが1週間程度で回復します



予防方法

予防接種が最も効果的です。1歳を過ぎれば接種できます。(任意接種、有料)。受けておけば免疫ができますので、感染しないか、万が一感染しても軽くすみませす。又、感染したお子さんと接触したとしても、3日(72時間)以内にワクチンを接種すれば、80～90%の割合で発症を防ぐことができます。発症したとしても、症状は軽くすみませす。

